

アレルギー性鼻炎と大気汚染

○三好 彰・程 雷・殷 敏・時 海波
南京医科大学国際鼻アレルギーセンター

われわれはこれまで、この四半世紀アレルギー性鼻炎増加の原因と空想されていた大気汚染仮説が、実はなんら裏付けのない仮説に過ぎないことを、指摘して来た。ここでは大気汚染仮説の成立過程とその理論的根拠、それに対するわれわれの批判について、報告する。

○大気汚染仮説

①小泉一弘氏ら東大物療内科のグループは、日光における通行車両数の増加に伴って同地域のスギ花粉症の頻度の増えること、ならびにスギ林の中よりも道路沿いの住民に花粉症の頻度の高いことから、ディーゼル排出物質 (DEP) にはアレルギー反応を増強する作用があると、報告した。基礎実験の裏付けとして彼らは、マウスの腹腔内へのスギ花粉成分単独の注入よりも、DEP との混入の方が IgE 産生量の多いことを挙げた。

②兼子順男氏ら慈恵医科大学耳鼻科のグループは、大気汚染地区と目される東京都内と、非汚染地区と推定される岩手県内の被験者にアレルギー学的調査を行い、前者のアレルギーの頻度が後者より高いことから、大気汚染地区ではアレルギーの頻度が有意に高い、とした。

③ただし、世界的に見てもこれら大気汚染仮説を支持する論文は見当たらない。

○われわれの調査結果

北海道白老町におけるわれわれの調査結果では、大気汚染地区と非汚染地区との間に、アレルギーの頻度の相違は観察されない。